

令和8年5月29日開催 第3回

超低出生時代を迎えた津久見市の小学校の在り方検討委員会

会 議 録

1 日時会場 開 会 令和8年5月29日 (金) 15時30分  
閉 会 同上 17時30分  
会 場 星和工業津久見図書館 2階会議室

2 出席状況 委 員 出席者 委 員 長 住 岡 敏 弘  
委 員 成 松 親 善  
委 員 松 本 晃  
委 員 玉野井 里 穂  
委 員 麻 生 仁 見  
委 員 甲 斐 みどり  
委 員 土 谷 陽 史  
委 員 今 泉 克 敏  
委 員 西 郷 貴 芳  
委 員 吉 田 博 之  
委 員 江 藤 靖 雅  
欠席者 副 委 員 長 石 堂 克 己

作業部会 出席者 学校教育課指導主事 後 藤 龍太郎  
学校教育課指導主事 竹 田 順 和  
経営政策課 主 幹 川 野 慎 司  
社会福祉課 参 事 川 野 哲

事務局 出席者 管 理 課 長 宗 篤 史  
管理課 主 事 佐 藤 ひかり

オブザーバー 大分県教育庁 義務教育課 義務教育指導班  
指導主事兼課長補佐(総括) 眞 田 貴 弘  
津久見市防災危機管理室長 秦 野 貴 光

各園 保護者代表 カトリック津久見幼稚園 軸 丸 留 美  
向洋保育園 若 林 綾 芽  
しらうめこども園 利 光 優 花  
白蓮こども園 清 田 茉由佳  
明光こども園 中 武 美 喜

傍聴者 2名

記者 1社

- 3 議事等の概要
1. 開会
  2. 議事
    - (1) 経過報告
    - (2) 幼児教育施設保護者対象意向調査結果の報告
    - (3) 市内小学校の目標使用年数と更新周期の説明
    - (4) 参考人(幼児教育施設保護者代表)に対する聴収
    - (5) 協議「今後、どのような小学校を目指すのか」
  3. その他
    - (1) 今後の予定についての説明(事務局)
  4. 閉会

#### 4 会議の内容(要点まとめ)

##### 1. 開会

人事異動で変更となった委員、幼児教育施設保護者代表、オブザーバーの紹介  
議事録署名委員に玉野井里穂委員を指名。

##### 2. 議事

###### (1) 経過報告

(事務局) レジюме 第2回からの経過報告。

(委員長) 質疑等はあるか。 ⇒ (委員) なし

## (2) 幼児教育施設保護者対象意向調査結果の報告

(事務局)

市内の0歳から6歳児の保護者を対象に実施。令和8年3月17日時点の対象233世帯。回答が110世帯からあり、回収率47.2%であった。

資料1より、①「小学校期待すること」について、「基礎学力の確実な定着」「安心安全な学校生活」「いじめのない環境」「集団生活での人間関係づくり」の意見が多かった。特に「学力」と「安心できる環境」の両立を求める声が多く、勉強だけでなく、子どもたちが安心して通える学校づくりへの期待が大きいことがうかがえた。

②「特に重視して欲しい学習活動」として、「自然体験学習」「探求的な学び」「英語教育」「体育活動」など多様な学びへの期待が見られた。また、一人一人に応じた指導を充実して欲しいという思いも見られた。

③「施設設備であった方が良くと思うもの」は、「教室や体育館の空調設備」「洋式トイレ」「ICT環境」「防犯設備」など、安全で快適な学習環境を求める声が多かった。

④「小学校進学への不安」について、「不安がある」と答えた内容を分析すると、「人間関係やいじめ」、授業についていけるかという「学習面」、「登下校の安全面」、「児童数減少や複式学級」、「特別支援や個別対応」への不安が挙げられた。

自由記述では「人が少なく友達関係が固定しやすい」「いじめがあった際に逃げ場がない」「登下校を1人で歩くことが不安」「複式学級になることで学力が低下しないか心配」といった意見があった。

⑤「学校規模」について、保護者の考え方は一様ではなく、人間関係や学力面、地域との繋がりなど、様々な視点から悩んでいる様子が見られた。

⑥「複式学級について」は自由記述だったが、分析すると「学習面」への懸念を中心に、「学力や授業の質」「授業の進め方」「学習環境面」「上下関係や心理面」「教員の負担増加」などの懸念が主な内容であった。

一方で、「期待する」意見には、「少人数ならでの丁寧な指導」「学年交流によって成長できる」「自主性が育つ」「学校を残して欲しい」といった内容があった。

意見全体をテキストマイニングで分析した結果は、「複式学級」「統合」「少人数」「ICT」「千怒」「建て替え」などの言葉が目立った。このことから、保護者の関心が単に学校規模だけではなく、学校施設やICT環境、今後の学校再編の方向性まで広がっていることがわかった。

(委員長)

質疑等はあるか。

(A委員)

回答が233世帯のうち110件しかないが、不切以降の回答はないか。

(事務局)

不切以降の回答はなかった。

(委員長)

感じるのは、未就学児の保護者の方で、特に第1子が小学校に通うとなると、小学校についてあまりわからず、複式学級などに不安を感じる方がかなりいると感じた。他に何か質問や意見等あるか。 ⇒ (委員) なし

### (3) 市内小学校の目標使用年数と更新周期の説明

(事務局)

#### 資料2

P1 令和3年3月策定の「津久見市学校施設長寿命化計画」より校舎の目標使用年数を80年として、大規模改造の周期を概ね20年・60年、長寿命化改修の周期を概ね40年としている。おおよそ20年周期を1つの基準としている。

P2 長寿命化改修は構造躯体を生かす工事で、津久見中学校がこれに当たるため、比較的イメージしやすいと思う。大規模改造については、更新が必要な部分を中心に実施するもの。新築については、現在の学級数などに合わせた校舎等を新設するもの。

P3 現計画では令和12年度までに赤色で囲んだ5つの施設が長寿命化改修を行う予定。

P4 令和13年度からの次期計画の策定の際に、長寿命化改修対象となる校舎等を赤色で囲んでいる。この詳細は次期計画策定時に具体的に考えていくことになる。

P5 20年を経過する施設と検討が必要となる周期に近い施設になる。必ずしも大規模改造が必要となるものではないが、状態によっては実施を考えることになる。

P6 千怒小学校の改修は当初、旧第一中学校の改修単価をもとに約7～8億円で校舎①と③ができるのではないかと考えていた。最終的に全体(校舎①②③)で約15億円の概算となった。校舎①と③の2棟でも12億～13億円程度ということが分かった。あまりにも計画と開きがあるため、市長部局と協議を行い、優先度の高い箇所から可能な範囲で改修することとし、工事を1年間延期して今年度変更設計に着手している。

P7 津久見小学校は校舎①～③と体育館が長寿命化改修の対象になっている。校舎の試算は千怒小学校の改修単価から算出し、総額約20億円かかるのではないかと想定している。今後も物価及び人件費の高騰が考えられ、非常に予測が難しい。体育館は約4億円必要ではないかと予想している。校舎同様、事業費の上昇が考えられる。

津久見小学校は、今の学級数や児童数から考えると、現在の校舎は規模が大きい。建設された昭和50年当時、24学級940人程度の児童数で、昔はもう1棟校舎があった。

校舎④についても、今後大規模改造の検討が迫ってくる。この校舎も若干経年劣化が見られる。

P8 脱炭素先行地域事業が予定されている。対象は広域・地域防災拠点及び避難所となっており、大分県と津久見市・臼杵市・佐伯市と民間事業者が共同提案者となり、今回採択された。

P9 脱炭素化と同時に避難所の快適性向上を図るため、津久見市はLED照明設備や体育館への高効率空調設備導入、高効率給湯器導入などとなっている。他に太陽光発電や蓄電池の導入を民間事業者が行う。

総事業費が約4億6千万円で、2/3を国の補助金で実施する。これは令和8年度から令和12年度の間順次実施することになる。現在、この事業の精査を国が行っており、具体的な内容は今後決定する。

堅徳小学校の体育館は、津波浸水区域にあるため、この事業は対象外。ただし管理課としては、文部科学省の補助金を使って空調を整備できないかと考えている。こちらについては1/2の補助。

この資料の事業については、計画段階のため、全ての実施を約束できるものではない。

このように非常に多くの事業をここ数年で実施しなければならない。4校を今後どう管理するか非常に難しい問題だと担当課として考えている。千怒小学校・津久見小学校以外もそう遠くない時期に改修等を考えなければならない。

P4にある次期長寿命化計画で検討予定の堅徳小学校を千怒小学校の改修単価を使って工事費を算出すると、約8億2000万円プラス仮設校舎。体育館は、約1億4500万円から2億1800万円程度かかる。青江小学校では約9億2300万円プラス仮設校舎となり、千怒小学校も校舎②③と体育館が該当すると考えられるが、次期計画に関することについて、現時点で決定しているものはない。

来年度から着工予定の千怒小学校は、主に外壁やトイレの改修などを考えている。他にもあるが、今後の設計、関係各所との協議を行い、内容について決定していきたい。他の学校についても、あくまで参考だが今後10年から15年の間には50億円を超える事業費が見込まれるのではないかと考えている。

このような状況から、どういった施設整備が子どもたちにとって最適な環境となるのか、どういう施設なら保護者の方が子どもたちを通わせたいと思うか、またそれを実現するためには財源をどうするかということも併せて考える必要がある。他にもどう整備していくことが後年の負担を減らせるかなど、様々な観点で検討しなければならない。

置かれた状況により地域ごとで考えは異なると思うが、現在の津久見市の状況を考えたとき、一般的に施設管理の担当課は4校すべてを維持するよりも、統合により施設を集約化した方が、子どもたちにとってより良い教育環境を提供できるのではないかと考える。

#### 資料2-2

令和13年には津久見市全体で279名の児童数になるのではないかと推計している。平均すると年間34名程度が減少している。今後を見据え、見合った規模の校舎に新築して、最新の設備で今後80年をスタートした方が、将来の負担を考えても良い選択になるのではないかと考えている。状況によっては、現在の校舎を長寿命化改修することも考えられることから、施設整備の選択肢は、今後も議論が必要だと思う。ただ児童数などを考えると、今後20年から30年程度施設を維持するために、全体で約50億円をかけることの是非は考える必要があると思う。

千怒小学校で来年度行う改修の内容は今年度検討するが、それ以外のことについて

は、現時点で決まっているものではない。

(委員長) 質疑等あるか。

(B委員)

資料を見ると、千怒小学校は改修した場合 15 億円かかると。

これから児童数が減ってきた場合、今のニーズに合わせた校舎を新築した場合はいくらになるかという想定 of 計算はしているか。

(事務局)

設計内容によって金額が変わるので一概に言えない。

建てる施設の内容で変わってくるので、長寿命化改修と新築の単純比較は難しい。

4 階建ての津久見小学校は非常に大きく、かなり大規模な工事になるので、担当課としては、今に見合う規模で新たにつくった方が良いのではないかという考え。

(委員長) 他にあるか。 ⇒ (委員) なし

(事務局)

### 資料 3

これからの小学校の校舎は教室が単に並ぶのではなく、子どもたちの学び方や過ごし方に合わせて柔軟に変化できる空間が求められる。文部科学省の「新しい時代の学びを実現する学校施設」では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、①柔軟で創造的な学習空間 ②新しい生活様式を踏まえ、健やかな共創空間を実現 ③地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現④子どもたちの生命を守り抜く、安心・安全な教育環境を実現 ⑤脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現 の 5 つの支援が必要と言われている。

イラストはこれらの視点をもとに作成している。ガラスが大きく明るい校舎・広い階段や廊下は、居場所となる温かみのある空間を表現。ロッカーを廊下に置き、教室を広くする。トイレは非接触型で個別スペースを確保する。そして 1 人 1 台端末環境等に対応したゆとりのある教室を表現し、最後に多目的スペースによる、多様な学習活動の場の確保も今求められている。

教職員には、個人作業や共同作業のための場などが求められる。

では実際にどのような校舎が近年建てられているのか、大分市立金池小学校と大分市立大在東小学校に視察に行ってきたので、写真をお見せする。

まず、金池小学校は校舎全体の半分が教室棟でもう半分が体育館になっている。1 から 6 年生が同じ玄関から入り、靴箱は広く、入口には案内板があった。一直線の校舎のつくりで、奥まで見渡せるようになっている。また、各階に先生がすぐに集まれるスペースがある。各教室の扉が全開でき、取り外しも可能。津久見小学校を見学した際、どなたか「ぎゅうぎゅうだ」とお話をされていたかと思うが、金池小学校は津久見小学校と同じ数程の机が入ってもスペースが余るほど 1 つ 1 つの教室がとても広い。教室の向かい側にある各階スペースで学年集会等をするそう。ここには電子黒板

も設置されている。

図工室の隣にはのこぎり等を使用しても大丈夫なように広い空間があった。

各特別教室も十分な広さがあり、その隣には先生がすぐに荷物を取りに行ける倉庫が必ず備え付けられている。

各階のトイレは男子・女子トイレともに洋式になっている。

各階に案内板が設置されている。

階段は2ヶ所あり、片一方はとても広く、こちらをメインで子どもたちが使っている。もう1つの階段は狭めになっている。

体育館の後方2階には防災倉庫が設置されている。ここは避難所に指定されており、津久見小学校も避難所に指定されているが外に倉庫を設置している。

校舎と体育館は繋がっており、体育館の下は児童クラブになっている。

職員室の向かい側には保護者等と話ができるスペースがある。

金池小学校は教室・体育館・児童クラブが併設され、校舎の反対側には、幼稚園も設備されている。とてもコンパクトで一体感がある校舎だなと感じた。

次は大在東小学校で、金池小学校に比べると敷地や校舎もかなり広い作りになっている。社会体育で2階の体育館を利用できる。大きなガラスがある明るい階段をのぼり各教室へ向かう。大在東小学校は弧を描くような校舎になっている。各階の教室横には広いスペースがありグループ活動等ができる。金池小学校同様、各教室の扉が開放できるようになっていた。

トイレの外側には、コンクリート造りの壁にコルクボードを貼り付けられ、子どもたちの作品を展示できる工夫があった。机は給食トレイ・iPadが載ってもゆとりがある大きい机が使われ、その机が余裕で入るくらいの教室の広さになっている。ロッカーは縦1列分を1人で使え、自分のスペースがきちんと確保されている。教室の隣には空き教室があり、そこで学年集会をするそう。

特別教室は横長になっていて、普通教室とは広さが違う。金池小学校と同様、すぐそばには倉庫を設置している。

消火器等も壁の中に埋込みし、廊下には障害物がないような工夫をしている。

3階のテラスは普段は戸締りしているが、ここに植木鉢を置いて観察をする学習スペースもあった。家庭科室はIHが設置されていた。

理科室の入口には部屋の目印となる模型などもあった。中には、先生の教卓の隣にはもう一つ机があって作業できるスペースがあった。

特別支援教室は普通教室の半分ぐらいのスペースで4・5教室並んでいる。この教室の向かい側にはゆっくり過ごすスペースも確保されている。

特別支援教室は防音になっている。また、個室が良いという子どものために個室トイレが設置されていた。「みんなのレストルーム」という4、5人でゆっくり過ごすようなスペースもあった。落ち着くためのクールダウン室も設置されていた。

図書室は扉を開けて入るものがスタンダードだが、大在東小学校は扉が一切なく、フリースペースのようだった。読み聞かせをしたり、床に座ってゆっくり読めたりできるスペースもあった。

ごみ捨て場は外に設置された保管庫に入れるのではなく、校舎内に設置をされているので外に行くことなく、扉を開ければごみを置くことができるそう。反対側の外側

も扉があり、そちらから業者はごみを持ち出すようになっている。

1階には、防災の拠点ということで会議室があり、地域の方や災害時に使うことができるよう。また1階に調理室がありいつでも給食を作る様子を見に行くことができるという空間もあった。

体育館には1階のステージ横に防災倉庫があり、クーラーも設置されていた。

保健室は折り畳み式のベッドで普段は収納しているそう。

職員室も広い空間で、後方は先生が話し合いをするスペースもあった。すぐそばには教材等を置く倉庫も備えつけられていた。

各階の真ん中に特別教室があつてその両サイドに普通教室がある。そして児童クラブが3部屋分の広いスペースを確保している。

(委員長)

津久見小学校見学後の感想も合わせて質疑等あるか。

少し前に建てられた碩田学園も扉が自由に動く教室で廊下も広く、のびのび生活ができる学校になっていた。

(C委員)

津久見小学校の教室・トイレ・廊下全て狭かったが、今の学校は相当広い。それは新築を建てるときの基準が何かあるのか。

(事務局)

確か津久見中学校を長寿命化改修工事する際、廊下の広さが足りなかった部分は、壁を少し削って広さを確保した。長寿命化改修するとなると、かなり大掛かりになる可能性がある。

(D委員)

今の中学校の教室の広さには基準がある。津久見中学校に改修する際、教室を大きくしたかったが、長寿命化改修の限界があり、何とか工夫をして今の形にした。新築の学校を見ると、廊下も教室も広くて良い印象。

(C委員)

その詳しい基準を次回教えていただきたい。トイレが洋式化もできない要因がそこにあるとお聞きしたこともあるので。

(委員長)

他にあるか。

(A委員)

どちらもすごくきれいで良いと思った。統合になった際は新築で建てて欲しい。

(事務局)

先程の話にあったが、長寿命化工事は元々の構造的な問題があるので限界があり、新築になれば1からの設計になるので自由度はかなり違うと思う。あとは費用面の問題になる。

(B委員)

最近建てられた学校は今までとは全く違うものだと思ったが、やはり先程A委員が言ったように、統合するかしないか別にして、工事するのであれば新築した方が良い。あれだけの学校があれば人口流失の歯止めの一つになるのではないかと思う。

学校は地域の防災施設の役割もあるという話だったが、新築した場合、学校として使用しなくなった建物は、今後、防災や地域のために何か改修するのか。

(事務局)

建物が学校である間は、教育委員会で手立てを考えないとならないが、例えば学校施設ではなくなる場合、どう今の施設を維持するかは地域を含めて議論が必要。ただ、すべての建物が必要ということでもないと思う。

堅徳や青江小学校については、平成20年代に建った校舎等もあるので、他とは状況が違うところもある。ただ古くなり過ぎると、かなり手を入れないといけない。いずれにしても市全体で考えることかと思うので、また別の議論が必要になると思う。

(B委員)

改修するにしろ、統合して新築にするにしろ、子どもが子どもである時間も限られすぐに成長する。どんどん人口も減っていて、今後より減少する状況が想定できるので、どちらにしろ早い動きが必要じゃないかと思う。

(E委員)

津久見小学校の放課後児童クラブは現在92名の子どもが利用を希望している。最大で60名いた。部屋も窮屈。文科省が示している「共生空間」というところで、子育てと教育を切り離してはいけないと思う。保護者のニーズも非常に高いので大事だと思った。

今、新しい新学習指導要領で「柔軟で創造的な学習空間を実現」というところも含めて、教室以外の広いスペースがあると今と全然違うだろうと感じる。

(委員長)

新しい学習指導要領の制定や「共同的な学び」を考えると、広いスペースがあればいろいろと教育活動の幅も広がっていく。また廊下とかも空間が必要だということ。

(F委員)

放課後児童クラブを所管する社会福祉課の立場から発言させていただく。肌感覚にはなるが7年ぶりに福祉課に戻ってきて、そのときと比べて利用者数があまり変わってないように感じる。児童数が減少している中、数が減っていないということは放課後児童クラブのニーズは年々高まっていると実感する。

各クラブに挨拶に行った際、指導員が7年前とほぼ変わっていないと感じた。指導員との意見交換の場でも「後継者がいない、人材不足」と以前から言われていて、ますます深刻になっていると感じた。

この時間帯は、晩ご飯の準備の大変忙しい時間で、短時間労働になり、募集をかけたもなかなか手がいない状況。

青江・千怒小学校の児童クラブは法人が運営しており、そこは日中の業務とうまくローテーションして人材確保を図れていると思うが、堅徳・津久見小学校はPTA運営になっているので、人材の確保は大変厳しい状況。指導員の善意に頼っている状況もある。そういった面もあり、将来的には全児童クラブを法人運営に移行させていく必要があると感じているが、今児童クラブを運用している法人がどこまでできるかは今後協議していかなければいけないと思う。

それから、先程の「狭い」問題はずっと言われていて、全く状況が変わっていないと思う。臼杵市の福良ヶ丘小学校は放課後児童クラブが学校内にあり、隣接する多目的ホールをうまく使いながらスペースを確保しているという例もある。しかし、堅徳小学校の児童クラブは校舎と離れたところにあり、津久見小学校も空きスペースを使用するのであれば、場所が離れてしまい、指導員が余計いる。今の人材不足の面からも難しい状況。今後、児童クラブの集約と同時にスペースの確保も同時に考えていかなければいけないと感じている。

(委員長) 他にあるか。 ⇒ (委員) なし

#### (4) 参考人(幼児教育施設保護者代表)に対する聴取

(委員長)

今回の論点を「小学校のあり方は津久見市全体の問題」としてとらえ、本市の将来を担う子どもたちに施す小学校教育の具体的な方向性について検討をしたい。

そこで、幼児教育施設保護者代表の皆様にお子様を就学させるにあたってどのようなことを考えているかなどお尋ねをしたいと思う。

各委員から質問等を受けたいと思うが、まず私から何点かまずお伺いをしたい。

1つ目は、津久見市では年間出生数が40人を下回る年が出ている現状を踏まえ、お子様の小学校入学時にどのような教育を望んでいるか。

2つ目は、小学校進学に対して心配事はあるか。あるとしたら、具体的に何か。

3つ目は、設置者である津久見市や管轄する教育委員会に対し何か要望があるか。

これ以外にも何か発言したいことがあればお話しいただければと思う。

(保護者代表A)

今小学3年生と幼稚園に通う子がいる。アンケート結果を見ても皆さんいろいろと不安なことがあると思うが、それに対して今の考えや計画を答えられる範囲で回答いただけたらありがたい。

(事務局)

事務局の中で協議をさせていただければ。

項目が多いのでなかなかすべては難しいが、ある程度まとめてお答えできればと思う。公表の仕方は事務局内で検討させていただきたい。

津久見中学校以外はかなり古くなっていて、現長寿命化計画で千怒・津久見小学校は長寿命化改修工事の対象になっている。

千怒小学校はこの方針で進めてきたが、費用面で厳しい状況が出てきた。それでも改修すべきところは改修する方向で進んでいる。津久見小学校も対象になっているが、まだ設計等していない。ただ、そう遠くない時期にとりかからないといけない。どういったものになるかは、この検討委員会の結果や、今後の市の方針も含めて考えていきたいと考えている。

トイレの洋式化もずっと要望があり、大変申し訳ないという思いがある。千怒小学校の洋式化は、来年度からの工事で行いたいと考えている。

(保護者代表B)

第1子がまだ年中で小学校についてイメージがつかないが、子どもたちが減っていく中、統合するかしないかの話に、学校の建て直しの話もあればまた難しくなると感じた。ただ子どもが減っているからという理由だけで、統合した方が良い、しない方が良いという話ではないと感じた。

(保護者代表C)

うちは小学2年生と年長と2歳の子がいる。小学生が入学するタイミングで引っ越してきた。その際に大分市か、私の実家がある津久見市に帰ってくるか家族みんなで検討した時に、子どもが自由な感じで、少人数が良いということで堅徳小学校に行くことにした。私も堅徳小学校出身で、少人数で育ってきた上で選んだ。アットホームで先生との距離もとても近く、今のところは学習も困っていない印象。縦割りで上級生との関わりもあり、揉まれることもあるがその中で成長していると思うので、「統合」という話が出たときに、堅徳小学校に通わせている保護者から「統合して欲しくない」という意見を聞く。

少人数が良くて県外から帰ってきた人もいるので、全ての学校が統合となると、人間関係に困惑することもあるかと感じる。稀な意見かもしれないが、統合することで子どものメンタル面が少し心配だと思っている。

また、佐伯市等で子育て支援に関わっているが、津久見市は育休期間に楽しんだり、サポートしてくれたりする場所が不足していると思う。「どこに行ったら良いかわからない」という声をよく聞くので、子どもの減少を抑えるためにも「じゃん・けん・ぽん」などを実施しているかと思うが、より充実した支援環境を整えてもらえたら歯止めがかかるんじゃないかと思っている。

(F委員)

新庁舎を建設中で、完成と同時に「じゃん・けん・ぽん」を今ある千怒から新庁舎1階に移す予定。近くの「つくみん公園」なども利用でき、より充実した「じゃん・

けん・ぽん」にしたいと思っている。

(保護者代表B)

楽しみにしている。

(保護者代表C)

複式学級というものがよくわかっていない。授業はどうなるのか。

(D委員)

2学年が1人の担任の先生から教えてもらう。例えば、国語の授業が1時間あったら、前半は3年生の授業、後半は4年生の授業を1人の先生が教える。これは「わたり」という方法で、場合によってはその方が学習効果が上がることもある。ただ、先生のスキルもいるので、ベテランの先生が行うことがよくある。しかし、堅徳小学校に複式学級はあるが、複式解消の非常勤講師が1人いるので実際には複式授業にならないよう、3・4年生の主要教科の授業を別々で行っている。

(保護者代表C)

では、上級生が下級生の授業を再度習うというわけではないのか。

(D委員)

先に4年生を教えて、次に3年生を教えるという工夫をしながら学習内容が履修できるようにしている。

(保護者代表C)

アンケートに「複式学級についてどう思うか」という項目があったが、津久見小学校は比較的人数が多いので複式学級にはならないのか。

(D委員)

今現在、人数の減りが一番激しいのは津久見小学校なので、今後10年、20年先はわからない。

(事務局)

大分県の基準は、2学年合わせて14人以下になると複式学級の対象になるということで、資料2-2から読み取ると、色がついていない学年の転出者が増えると、その対象になる可能性はある。逆に、色はついているが、そこに転入者がきた場合は単式学級になる場合もある。

(保護者代表C)

自分が経験していないので、複式学級がどのようなものか不安がある。

堅徳小学校は少人数の良さがあるということで、あまり統合してほしくないという意見があったが、今後統合するとなればB委員が言ったように早い段階で決めた方が

良いと思う。また、統合の際はスクールバスなどがあった方が良いんじゃないかと思う。

(事務局)

津久見市の場合は半島部が統合してきた経緯があり、日代四浦方面・長目地区は今タクシー通学をしている。統合するとなれば、通学手段についても議論をしていくことになると思う。

基準としては小学生の場合は学校から4キロを超えると何らかの通学補助をしないといけない。ただいろいろな地域事情等もあるため、そこは慎重に議論する必要があると考えている。

(保護者代表E)

私はトイレが心配だったが、先程の説明で少し納得できた。

(委員長) 他にあるか。 ⇒ (保護者代表E) 後は皆さんと一緒に。

(委員長)

私からは以上だが、委員の皆様から質問はあるか。

(G委員)

津久見小学校に今回初めて入って廊下や階段、トイレもすごく狭いと感じた。また新設の学校の写真を見て、もし統合するのであれば、B委員たちも言われているように新築でお願いしたい。可能であれば、新たな場所で建てていただきたい。

また、B委員からも急いだ方が良いという話もあり、早い段階で当事者の保護者も含めた地域等への説明会を行い、早めのスパンで動いた方が良いと感じた。今後小学校はどうなるのかと聞かれることもあり、興味がある方が増えてきているのかなと自分の感覚で感じる。

(事務局)

「統合をした方が良い」「統合は反対だ」という両方の意見が耳に入ってくる。ただ、この検討委員会は教育長から諮問されており、「どういった学校にしていけば良いのか」というところで話し合いをするもの。今回は9月を目途に教育長に対して答申する。その答申内容をあと数回の検討委員会で議論を深めていきたいと考えている。その後、市長部局と共有し、そこからどう動くか検討する。その際に地域に波及していくと思うので、この検討委員会は、教育長の諮問機関なので、この中で議論を進めたい。

(委員長) 他にあるか。 ⇒ (委員) なし

(委員長) これにて参考人からの聴取は終了

(5) 協議「今後、どのような小学校を目指すのか」

(委員長)

小学校のあり方を津久見市全体の問題ととらえ、本市の将来にある子どもたちに施す小学校教育の具体的な方向性についての検討として、皆様と協議したい。

まずは、イラストや写真などからイメージしやすい施設などのハード面、次に教育課程などのソフト面、そして放課後児童クラブなどの周辺環境についてご意見いただきたい。まずハード面についてはどうか。

(D委員)

ソフト面にも関連すると思うが、先ほど示された大分市の学校は良いとは思いますが、現学習指導要領をもとにつくられたものと思う。今後改修等する際は、2030年にスタートする次期学習指導要領に含まれる内容を取り込む必要がある。ソフト面を支えるには、箱だけ作って終わりではなく、いろんな仕組みや必要な設備があって夢のあるというか、津久見の小学校で学びたいと思わせるものがつくれないかと考えている。

教室の壁がなくなる仕組みも出たときはすごいと感じたが、今津久見中学校でも取り入れている。また何か新しい仕組みがあると良いと思う。

(委員長)

逆に大分市から見に来てもらえるくらいの学校になれば津久見市の魅力にもつながる。

(E委員)

今は黒板に板書する時代ではない。ホワイトボードに教職員の iPad 画面がそのまま映し出されることが資料 3 の次期学習指導要領の「1 人 1 台端末環境等に対応した」というところで今の子どもたちに必要。デジタル教科書も不可欠。約 10 年前の上海の学校ではそれが当たり前だったと聞いた。日本は随分遅れているし、工夫の余地がまだまだある。

また、ICT のバランスを考える必要があると今言われている。津久見市にはものづくりが盛んな津久見高校があり大事にしないといけない。図工の授業は今絵を描くだけでなく、ものづくりもする。それを今津久見小学校は教室で行っている。

今、ホワイトカラーの仕事が AI に代わる流れになっているとテレビでも放送されていたが、人間ができるアナログの部分も組み合わせ、ハイブリッド型教育の学校をつくることを視野に入れた方が今の子どもたちにいろんなことができると思う。

(委員長)

教員試験を受ける大学生から横浜市はホワイトボードを使っていると聞いた。その違いがある。

(G委員)

保護者のアンケート結果で「自然体験学習を重視して欲しい」という意見が多い。今、ふるさと教育で鉱山見学をしていると思うが、それは今1学年だけである。

中学生になったら市内企業に職業体験に行くが、津久見でこういう仕事がある、こういうふうに働いているということをも自然環境も含めて、小学校のときから学べる機会をもっと充実しても良いと思う。そこで津久見で働きたいと思ってもらえたら少子化に歯止めがかかるんじゃないかと思う。

(D委員)

自然体験への要望がこんなにあることが嬉しい。ぜひ小学校の授業により体験学習を入れられないか、学校と検討していきたいと思う。

(G委員)

津久見高校のものづくりの授業を小学生の時から見に行ったり体験したりして、津久見市で小中高一貫として動くことも良いと思う。

(E委員)

今の発言に賛成。栽培するための学級園等が今軽視されていると思う。学級数が多いことも理由にあるが、大分市の新しい学校でもあまりない。でも今の子どもたちはスマホ世代と言われるが、津久見小学校ではビオトープで多くの子どもたちが遊ぶ。こういった体験は学校でなくてはなかなかできない。理科の授業などでも幅が広がるため隅に追いやるのではなく、教育の中心にもっていく必要がある。

(委員長) 自然体験の延長として学校園を充実させると。

(B委員)

最先端を追うことは都会の学校に任せた方が良い。それに疲れて田舎に移住する人もいるし、田舎の良さを最大限発揮できるような学校づくりをして欲しい。設備だけが先走って、田舎の子どもたちが追いつかない場合がある。

まずは、子どもたちを大事にする。そして、未就学児の親へのサポートが少ないという意見があったが、全世代が集えるような、小学校を小学生だけの施設で終わらせない施設ができたらすてきだと思う。「良い小学校ができています。住んでみようか。」と繋がるような小学校が良いと思う。

(防災危機管理室長)

小学校は今各地区の避難所として重要な拠点となっている。様々な年代の地域の方が避難するところでもあるので、皆を迎え入れられるような設備等も含めて今後つくるべきではないかと思う。

(委員長)

ではハード面にかかわらず、自由に意見を出していただきたい。

(眞田課長補佐)

デジタルと自然体験の話が出てきたが、デジタルを活用することによってリアルな学びを支えていくことが大切とされている。また、人と人や自然と関わることも大切だと思う。

一方で、より変化が激しい世の中で今後子どもたちは生き抜いていかなければいけない。今よりもっと複雑なことが起きたときに、今想定している力よりもっと大きい力を学校教育の中でしっかりと育んでいく必要がある。それを施設面やソフト面からどう対応していくかを大人が考えていくことがとても大切だと感じた。今日皆さんのお話を伺って、きっと子どもたちは幸せに育っていくんだろうと感じた。

(委員長) 他にあるか。 ⇒ (委員) なし

(委員長)

では、私の方で意見をまとめると、まずは新学習指導要領を考えながら進めていく必要がある。また、デジタルとアナログという2つの側面を互いに補完し合いながら教育を考えていくべきである。自然や地域との関わりなど、津久見の良さを生かした教育を小学生の頃から積み上げていくことが必要ではないか。小中高連携も考えていくべき。

最先端を追うのも良いが、田舎の良さを大事にする。避難所等で学校を全世代で集まれる場として活用したらどうか。

変化が加速する未来を生き抜けるようにこれから考えていく必要がある。

以上、まとめるとこういった内容になるかと思うが他には良いか。

(事務局)

施設面から説明をさせていただいたが、選択肢としては、今ある建物を長寿命化改修、もしくは新築するという考え方もあることはご理解いただいたと考えている。この検討委員会自体は、統合ありきではないことを再三確認させていただいているが、施設を管理する者からすれば、集約化した方が良いと考えることは一般的なことだと思う。

いずれにしても、次回以降、施設はどうした方が一番良いのか、皆さんに考えておいていただき、そういった意見も出していただきたい。

建てられた当時と今の学校施設の考え方は全く異なる。子どもの人数が減り、現在の想定される学級数に応じた規模の建物が良いのではないかと、施設の複合化や放課後児童クラブ、地域との関わりの方面もあるので、ご意見として伺わせていただくと、答申案を作る際に参考になる。

(委員長)

作業部会において整理し、第4回のあり方検討委員会で報告する。

(委員) 異議なし

(委員長)

本日見学した津久見小学校の教室棟は50年を経過している。建設された昭和50年当時、24学級児童数940人であった。事務局の説明にもあった通り、長寿命化改修では現在の児童数に照らすと、躯体が大きすぎて改修が現実的ではない。

本日いただいた意見を勘案すれば、超低出生時代を迎えた本市の児童数に見合った規模の小学校をつくることも有力な選択肢となると思われる。そういったことも含めて次回からの検討を深めたいと思う。

議事を終了し、進行を事務局に戻す

### 3. その他

#### (1) 今後の予定についての説明(事務局)

(事務局) 資料8 (前回配付) より、今後の予定を説明。

閉 会

以上が本検討委員会の内容となりますので、ご報告いたします。

会議録作成者 管理課 佐藤 ひかり

[議事録署名]

上記に記録した会議の顛末は、真正であることを確認する。

署名委員

玉野井 里穂